

室内の空気をよごす主な化学物質

二酸化炭素（炭酸ガス・CO₂）

現状・発生源

二酸化炭素は人や動物の呼吸、燃焼器具の燃焼によって発生します。大気中の二酸化炭素濃度は約0.04%です。閉め切った室内では、起床時や開放型ストーブ使用時に二酸化炭素濃度が0.5%を超える場合があります。

人体への影響

空気中の二酸化炭素濃度が1.0%になると呼吸深度が増加し、4%を超えると肺からの二酸化炭素排出が阻害され、頭痛、めまいが生じます。ただし、室内の二酸化炭素濃度は、直接人体に影響するほど高濃度になることはまれです。

対策・対応（提案）

二酸化炭素濃度は室内空気の汚染の指標として重要です。低減のための対策としては、換気が最も効果的です。ビル管理法では、1日平均値として0.1%を超えないことを二酸化炭素濃度の基準としており、換気の日安となります。例えば開放型ストーブを使用する場合は、1時間に5分程度の窓開けが必要です。

参考ソース

横濱市衛生研究所

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/life_inf/situnai/kagaku.html#kagaku14